

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：防災学術連携体の設立と東日本大震災の総合対応の継承

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

- ・主催：東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会
防災学術連携体

3 開催日時：平成 28 年 1 月 9 日（土） 13 時～17 時 50 分

4 開催場所：日本学術会議講堂

5 開催趣旨：

日本学術会議が要となり、日本の防災・減災に関わる 30 の学会の代表が集まり、東日本大震災に対する反省と今後の抜本的な見直しに際し、本質的な議論を展開する連続シンポジウム「巨大災害から生命と国土を護る—30 学会からの発信」を行ってきた。その最終回（11 回）として、学術フォーラムを開催し、東日本大震災後の約 5 年間を振り返り、大震災から得られた教訓めとその継承について議論した。

このフォーラムをもって「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」は終了したが、後継組織として、日本学術会議と連携し、「防災学術連携体」を設立した。自然災害全般の防災を対象に、47 の学会の参画を得て、今後の大災害などの緊急事態にも対応できる継続性のある学会ネットワークを育てていく。本フォーラムではこの後継組織に期待される役割についても議論した。

6 参加人数：

講演者等：56 名

その他の参加者：232 名

7 特記事項：

①ネットによる中継を行い、合計視聴者数は 479 名であった。

一般紙 3 紙（読売新聞、神戸新聞、日刊工業新聞）、専門紙 4 紙（建通新聞、建設産業新聞、建設工業新聞、建設通信新聞）に、当フォーラムに関する記事が掲載された。インターネット上の BIGLOBE ニュースで紹介された。

②日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会と連携して、防災学術連携体が設立され、活動を開始した。両方で共催のワークショップやシンポジウムを開催する予定である。

③防災学術連携体に参加する 47 の学会は、今後も日本学術会議と連携を図り、防災に取り組むことになった。学術会議と学会の新たなネットワークが構築できた。